

教員の深刻な不足に対応するため、兵庫県教育委員会は将来的な志望者増を狙い、県立高校の進路ガイダンスに職員派遣を始めた。現場経験のある担当者らが教員の魅力を発信し「将来の仕事の候補に先生を」など呼びかけている。(大橋凜太郎)

「先生を職業選択の候補に」

県教委によると、神戸市を除く県内公立学校では、5月1日時点で短時間勤務の非常勤講師を常勤に換算して164人の教員が不足。採用試験の応募者数も減少し、2024年度採用の応募倍率は、少なくとも1987年度採用分以降で最低の4.7倍だった。

県教委は、高校生に大学での教職



生徒に教員の仕事のやりがいなどを伝える県教委職員＝三木市高梁町青山6

三木高 県教委、進路ガイダンスに職員派遣

課程履修や教育系大学への進学を視野に入れてもらおうと、23年度から進路ガイダンスに教職員人事課の職員を派遣。6月の尼崎稲園高校(尼崎市)を皮切りに、秋ごろまでに40校程度で予定する。

7日、三木北高校(三木市)では生徒18人が参加。職員が冒頭、教員の仕事のイメージを問うと「しんどそう」といった否定的な反応が相次いだ。ガイダンスになぜ参加したのかという質問には「憧れがある」などの声も上がった。

職員は、教員生活で感じたやりがいなどを語った上で「好きなこと得意なことを職業につなげて。人が好きで『この教科を教えたい』と思えば、ぜひ学校の先生として活躍してほしい」と力を込めた。

1年の古賀野歩夏さん(15)は「先生の仕事はしんどいイメージが強かったけど、楽しいと思っている人たちの話を聞いて、中学の体育教諭になってみたいという気持ちが湧いた」と話した。